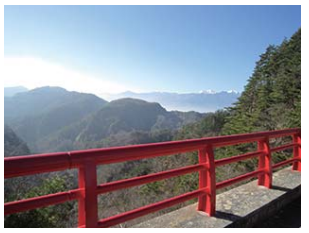
ぐるっとマップ

No.222 池田の民話

保存版

マップ作成：NPO法人 ぐるったネットワーク大町

池田町には数々の民話や伝承があり、ゆかりのものや場所も多く残っています。
今回のマップでは、池田の 池田町に伝わる民話や伝承を紹介します。
民話ゆかりの地に関するお問合わせ：0261-62-9197 池田町観光協会



1.岡崎おどり（正科）

江戸の初め頃、七助とふふという旅の夫婦が
正科の源光寺で働くようになりました。二人は岡崎の出身で、
遊女だった美人のふふは大名からも妻に望まれていました。
けれども心優しい下男の七助と恋に落ち、夫婦になるために
岡崎を抜け出してきたのでした。二人は正科神社のお祭りに
岡崎の五万石おどりを奉納し、おどりを村人に伝えました。
この岡崎おどりは今でも正科神社の秋祭りで続けられ、
池田町の民俗芸能文化財に指定されています。

2.幻の若松城（二丁目）

戸田康長という優れた殿様が松本城の城主だった頃、
殿様は隠居して三男の康直と住む城を
池田に築くことに決めました。町は活気づいて工事が始まり、
城は植えられた若松にちなんで若松城と呼ばれました。
ところが工事が始まって11年、もうすぐ完成というときに、
殿様の跡を継ぐはずだった長男が病で亡くなってしまったのです。
康長、康直親子はこの城に住むことはできなくなり、
工事は中止されてしまいました。
今も池田町二丁目の一角に、お堀の跡が残っています。

3.常光院薬師の手（二丁目）

昔、常光院という古いお寺に、大きくて立派な薬師像がありました。
あるとき和尚さんの夢枕にお薬師様が現れ、
もしもの時は安全な場所へ移してくれるように、体が運べなければ、
せめて手だけでも守ってくれるように頼みました。それからまもなく、
安政3年11月23日の夜、池田の町は大火事に見舞われました。
信心深い三吉の家族は、和尚さんと一緒に燃えさかる火の中から

お薬師様の両手を、
やっと運び出しました。
恐しい大火は翌日まで続きましたが、
不思議なことに三吉の家は焼け残り、
お母さんの病気は治りました。
助け出されたお薬師様の手は、
今でも浄念寺で見ることができます。

4.如意輪観音（豊町）

昔から池田は千国街道の宿場町として栄え、また豊かな田畑をひかえた米どころでした。
ところが、大きな火事や飢饉や病気の流行など、悪いことが続くようになりました。
困った村の人たちは、宿場の北と南の入口に観音堂を建て、優しい顔の観音様を祀りました。
子どもたちは観音様のありがたいお力を広げようと、五色の旗を立てて二つの観音様の間を走りました。
今でも祭りの日には、旗を持って子どもたちが走ります。

5.登波離おとし（有明）

切り立った崖に囲まれた山頂に、白駒城というお城がありました。
城主の樋口行時は奥方のふじと暮らしていましたが子宝に恵まれず、
側室のきよを迎えました。ふじときよは憎みあうようになり、
ついにきよはふじを殺そうと思うようになりました。
きよの態度がおかしいと思ったふじは、二人の袖のたもとを
十針ほど縫いつけておいたので、橋からふじを突き落としたきよも
一緒に落ちて死んでしまいました。行時はこれまでの行いを悔い、
二人の供養のためにお坊さんになったということです。
この橋は今は登波離（とはり）橋と呼ばれています。

6.滝沢権現のお鉢掘り（滝沢）

滝の沢には、昔龍王様が自分の尻尾の剣で掘ったといわれる
7つの穴があり、剣摺鉢と呼ばれていました。
安曇平に日照りが続いた年、11か村の村人総出でお鉢掘りをすると、
お鉢の底まで掘った7日目についに雨が降り、土砂降りとなって田畑を潤しました。
それからというもの、日照り続きにはお鉢掘りをすればよいと言い伝えられています。
もっとも水の便がよくなった今では、雨ごいをすることもなくなりました。

7.ままっ子おとし（田の入）

昔々、東山の高いところに田の入城という山城がありました。
そこの継母おりくは、自分の息子が生まれると継子の太郎丸が
邪魔になり、赤とんぼが捕れるからと太郎丸をそそのかして
切り立った崖におびき出すと、突き落として殺してしまいました。
死んだ太郎丸の手には、とんぼが一匹しっかりとにぎられていたということです。
今でもこの崖は「ままっ子おとし」と呼ばれています。

8.身代り地蔵尊（渋田見）

天文年間（1532～1555）に、仁科一族の渋田見氏が
武田信玄の軍勢に攻め込まれた時のこと、
渋田見の氏寺も焼かれ石仏は四散しましたが、
武田の兵が住民に切りつけようとした時、
地蔵尊が現れ、身代わりとなって防いでくれました。
昭和初期になってから、畑に埋まっていたのを掘り起こされた6体の地蔵尊は、
大切に祀られ、今も毎年4月末には地域の人たちにより祭りが続けられています。

今回のマップは 安曇野児童文学会編（1991）『池田の民話』信濃教育会出版部 を参考に、
池田町観光協会に情報を提供していただいて作成しました。興味のある方は是非、本もご覧ください。

このマップでは、四季折々の地域の魅力を再発見するために、
皆様から情報をいただきながら様々な切り口で紹介してまいります。
ぐるったネットワーク大町事務局：TEL 0261-85-0556 FAX 0261-85-0557

※このマップは、2019年2月22日付の大糸タイムスに掲載されました。
※情報は掲載当時のものです。ご注意下さい。
※個人で楽しんでいただくためのものです。二次利用をされる場合にはご相談下さい。